

# 気候変動枠組条約第25回締約国会議 (COP25) の結果について

令和2年2月  
環境省地球環境局

# 気候変動枠組条約第25回締約国会議 (COP25)について

令和元年12月2日～15日 スペイン・マドリード

## 日本の取組の発信

- 日本の温室効果ガス5年連続削減で11.8%減、これはG7では日英のみ
- 2050年までのネットゼロを宣言した自治体が28自治体(4500万人)(カリフォルニア州を上回りスペインに迫る)(※2月3日時点で55自治体、人口は約4,968万人、日本の総人口の約39%)
- 経団連の「チャレンジ・ゼロ」、TCFD賛同企業数1位、SBT設定企業数2位、RE100加盟企業数3位
- フルオロカーボン排出抑制に向けた日本発のイニシアティブ
- 大阪ブルー・オーシャン・ビジョンのG20以外への共有
- 緑の気候基金(GCF)への追加拠出を含めた我が国の貢献



ステートメントの発表

## 交渉の結果1

(パリ協定6条(市場メカニズム)に関する実施指針)

- パリ協定の実施指針のうち、COP24で先送りされた6条については、交渉を継続することとなった。
- 6条2項(市場メカニズム)の協力的アプローチにおいて我が国が実施する二国間クレジット制度(JCM)が位置づけられており、6条関連実施指針の採択はJCMの実施にとって大変重要。
- 小泉環境大臣が主要関係国と精力的に調整した結果、今年のCOP26での採択に向けた道筋をつけることができた。

## 交渉の結果2

### （野心の向上について）

- 温室効果ガスの削減目標（NDC）の上乗せについては、議論されたが、合意は、パリ協定の範囲内。
- COP26において、NDC再提出後の状況について、気候変動枠組条約の事務局が統合報告書を作成し、締約国で議論される見込み。

### （ロス&ダメージについて）

- ロス&ダメージ※については、ワルシャワ国際メカニズム（WIM）のレビューが実施された。適応事業はロス&ダメージの対策に資することから、既存の枠組みを活用して検討を続けることとなった。
- WIMにおける3つ目の機能「資金を含む活動支援」に係るワークストリーム下に新たに専門家グループを2020年末までに設置することとなった。
- また、関連組織、ネットワーク等による技術支援を加速するためのサンティアゴ・ネットワークを設置することとなった。

※ロス&ダメージ：気候変動の悪影響（気象についての極端な事象及び緩やかに進行する事象を含む。）に伴う損失及び損害

### （海洋及び土地について）

- 今年6月に行われる補助機関会合において、海洋及び土地と気候変動に関連する対話を実施することとなった。

### （ジェンダー）

- リマ・ワークプログラムとジェンダー行動計画が改訂され、キャパシティビルディングやジェンダーバランス等に関する5つの優先分野の下で具体的な活動等を定めた。

## 小泉大臣の公式会合・イベントへの参加等

### 公式会合への出席

- 閣僚級セッション開会式
- 適応に関する閣僚級対話
- 閣僚級会合（政府代表ステートメント）
- COP議長による全体会合（インフォーマル・コンサルテーション会合）
- COP閉会全体会合

### 日本のイニシアティブの設立・展開

- 「フルオロカーボン・イニシアティブ」設立イベント
- 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」ラウンドテーブル

### その他イベントへの出演

- 第7回JCMパートナーシップ会合
- 国連SDGパビリオン「Climate and SDGs Synergy Approach」ワークショップへの参加
- 気候変動と防災に関するイベントへの参加
- GCFイベントへの参加
- GCA (Global Climate Action) プレナリーイベントでの発信
- ネット・ゼロカーボンに向けたイノベーションのチャレンジに関するイベントへの参加
- 炭素中立性連合閣僚会合への参加

## 小泉大臣の各国の閣僚級との会談等

### 各国の閣僚級との会談

- 小泉環境大臣は、議長国チリ、コスタリカ、ブラジル、EU、フランス、ドイツ、南アフリカ、シンガポール、ニュージーランド、グテーレス国連事務総長、エスピノザUNFCCC事務局長など、13カ国・地域の大員又は代表及び4つの機関の長とのバイ会談を、のべ36回行い、市場メカニズムの実施指針に関する交渉を主導するとともに、気候変動分野における考え・取組など様々な点について意見交換を行った。

### ステークホルダーとの面会

- 国内外NGO（気候ネットワーク他）
- 気候イニシアティブ（JCI）
- 経団連
- Climate Youth Japan

# 小泉大臣の気候変動外交（UNFCCC交渉）



- ◆ 交渉の公式プロセスにてステートメント、全体会合等により **日本の意見を積極的に発信**
- ◆ 閣僚級会合ではファシリテーションを任されるなど **合意に向けてチリ議長を支える**
- ◆ 議場においても最後まで各国閣僚と意見を調整し **日本の新たな気候変動外交を示す**

## 日付 大臣の出席イベントと発言概要

12/11  
(水)  
①ステートメント  
日本の5年連続GHG排出削減実現やネットゼロ宣言自治体の増加、日本の脱炭素化のコミットや緑の気候基金(GCF)への資金拠出等の我が国の

12/13  
(金)  
② 議長ストックテイキングプレナリー  
(大臣発言)  
第1版の議長テキストが出てきたことを踏まえ、本テキストをベースに議論を進めるべきとの前向きな発言を行う

12/14  
(土)  
③ 6条閣僚級会合  
6条に関する主要国(中国、ブラジル、印、サウジアラビア、エジプト、EU、スイス、日本)が参加。大臣はファシリテーターとして議論の取りまとめに尽力

12/15  
(日)  
④インフォーマルストックテイキング  
(大臣出席)  
⑤クロージングプレナリー  
(大臣発言)  
積極的に議長や関係国閣僚級と意見を調整



①ステートメント(ロイター)



②議長ストックテイキングプレナリー  
における発言 (IISD/ENB)



議長ストックテイキングプレナリーの  
会場 (IISD/ENB)



③6条閣僚級会合 (環境省)



④インフォーマルストック  
テイキング (IISD/ENB)  
左:スペイン・リベラ環境保  
護大臣 中央:チリ・シュ  
ミット環境大臣



⑤クロージングでのチリ・シュミット  
環境大臣との議論(ロイター)



⑤クロージング間際のブラジル・  
サレス環境大臣との調整  
(ロイター)



UNFCCC エスピーノーサ  
事務局長との会場での議論  
(IISD/ENB)

## 小泉大臣の気候変動外交（バイ会談）

- ◆ パリ協定6条合意に向けて、**主要国・国連機関の閣僚級と計36回以上のバイ会談を実施**
- ◆ 議長テキストの第1版が出た12/13(金)の夕方から深夜2時まで。**各国閣僚と合意文書案や具体的な数値について調整**(1日で13回のバイ会談を実施)
- ◆ 議長テキスト第2版が出た12/14(土)朝から夜まで、テキストを各国と最終調整。**合意まであと少しというところまで道筋をつける**

### 日付 バイ会談の実施状況

#### 11:45 議長テキスト第1版の配布

終日、深夜にかけて以下のバイ会談を実施

- 12/13 (金)
- チリ・シュミット環境大臣(1, 2回目)
  - ブラジル・サレス環境大臣(1~3回目)
  - EU・ティーマーマンス筆頭上級副委員長(1~3回目)
  - UN・グテーレス国際連合事務総長(1, 2回目)
  - 他、ドイツ、ニュージーランド・南アフリカ、アメリカ

#### 9:15 議長テキスト第2版の配布

以降以下のバイ会談を実施

- 12/14 (土)
- チリ・シュミット環境大臣(3回目)
  - ブラジル・サレス環境大臣(4~6回目)
  - EU・ティーマーマンス筆頭上級副委員長(4回目)
  - 他、シンガポール、サウジアラビア、エジプト・セネガル

#### 18:15 6条閣僚級会合

以降以下のバイ会談を実施

- チリ・シュミット環境大臣(4, 5回目)
- EU・ティーマーマンス筆頭上級副委員長(5回目)
- UNFCCC エスピノーサ事務局長(1, 2回目)

#### 00:20-1:10 議長テキスト最終版の配布



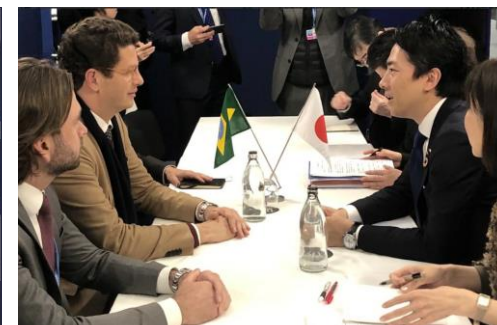
UN・グテーレス国際連合事務総長とのバイ会談



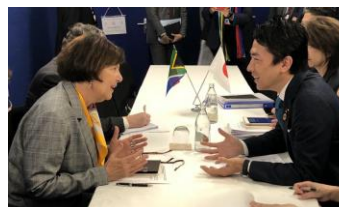
UNFCCC エスピノーサ事務局長との立ち話



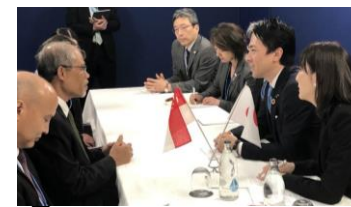
チリ・シュミット環境大臣とのバイ会談



ブラジル・サレス環境大臣とのバイ会談



南アフリカ・クリーシー環境・森林・漁業大臣とのバイ会談



シンガポール・スルキワ環境・水資源大臣とのバイ会談

## 小泉大臣の気候変動外交（クロージング）

- ◆ 全体会合クロージングの6条セッションに於いて多くの国から発言
- ◆ 大臣はパリ協定における市場メカニズムの重要性、ダブルカウント防止の必要性、京都議定書の下でのクレジットをパリ協定の目標達成に使わないことなどについて発言（会場より拍手）
- ◆ チリ議長、EU、スイス、豪、アラブ諸国（エジプト）、アフリカ諸国（セネガル）より日本に感謝の発言



クロージンプレナリーにおける大臣発言（ロイター）



チリ：「閣僚議長のNZ、南アに加え、日本に対して大変感謝している」と言及（UNFCCC）



クロージング終了後の記者対応（日経新聞）



EU:日本の発言を支持（UNFCCC）



スイス:小泉大臣及び日本チームの貢献に言及（UNFCCC）



豪:メンバー国でも特に日本の貢献に言及（UNFCCC）



アラブ諸国（エジプト）:日本への感謝を発言（UNFCCC）



アフリカグループ（セネガル）:日本への感謝を発言（UNFCCC）



## 1. 英国内のCOP26体制概要

- ・200名規模の省庁間組織(ユニット)を内閣府に設置。ビジネス・エネルギー・産業戦略省、環境・食料・農村省等の関係者をユニットに動員し、実質的に対応させる。
- ・議長のもとに置かれる気候変動特使等が省庁間組織(ユニット)を指揮。また、Mark Carneyイングランド銀行総裁を首相の顧問として任命。

## 2. COP26で想定されうる重要分野等

野心の向上を目的として、特に重要な分野を特定し、取組を推進する予定。現在検討されている分野は以下のとおり。

- ①グリーン・ファイナンス
- ②クリーンな成長(Clean Growth)
- ③自然に基づく解決策(Nature Based Solution)
- ④適応及びレジリエンス

## 3. 今後の対応(詳細は検討中)

- ・6条交渉の妥結等に向けた日本の積極的な貢献
- 6条市場メカニズムについての制度設計・データ分析等を各国と共有
- ・日本の具体的な取組(気候変動×防災、フロンイニシアチブ等)を引き続き発信

## 日時

12月10日（火）13:15～13:50

## 場所

公式サイドイベント会場

## 参加者

シュミット・チリ環境大臣とリレラ・スペイン環境移行省大臣による司会の下、2部構成でのパネルディスカッションが開催。第1部にて、小泉環境大臣を含む4か国（日本、ボツワナ、フィジー、ウルグアイ）の首相・閣僚が登壇し、適応に関する討議を実施。（第2部では、バングラデシュ、エジプト、韓国、蘭が登壇）

## 概要

- 適応の野心引き上げについて議論するとともに、各国の取組事例を共有する「適応に関する閣僚対話」がチリ政府により開催。
- 小泉環境大臣からは、パラダイムシフトの重要性に言及するとともに、日本で一昨年12月から気候変動適応法が施行されたこと、アジア太平洋に対し科学的知見に基づいた適応行動を支援するため、「アジア太平洋気候変動適応プラットフォーム」を設立したこと等を発信。
- 昨年11月開催された、関係府省庁で構成される「気候変動適応推進会議」にて、環境大臣が旗振り役となったこと、新たに防衛省が構成員となった事例も共有された。

日時

12月10日（火） 15:15～16:00

場所

Japan Pavilion

参加者

フランス・チリ・モルディブ・ADB・CCACなど  
イニシャティブ賛同各国及び国際機関等

概要

- フルオロカーボン（フロン）のライフサイクルマネジメントに関するイニシアティブの設立セレモニーが開催され、小泉環境大臣が本イニシアティブの立ち上げを宣言した。
- 賛同国・機関数：11の国と国際機関、国内の10の企業と団体（12月10日時点）



日時

12月10日（火） 16:15～17:15

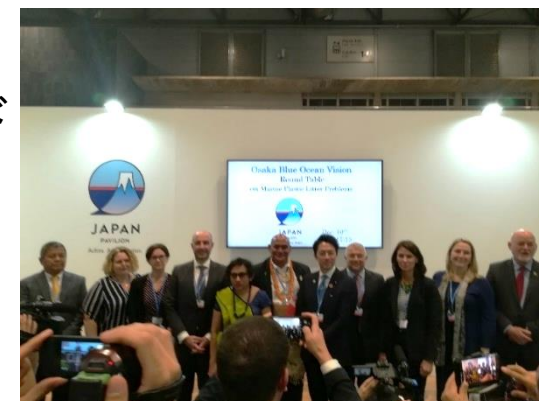
場所

Japan Pavilion

参加者

国：日本（主催者）、レバノン、ドイツ、ニュージーランド、アゼルバイジャン、スウェーデン、スリランカ、チリ、フィジー、インドネシア、ノルウェー（計10か国）

機関：国連海洋特使、英連邦事務局（The Commonwealth）  
太平洋地域環境計画事務局（SPREP）



概要

・小泉大臣より、G20以外の8か国を含む閣僚や幹部に直接呼びかけ、大阪ブルー・オーシャン・ビジョンを共有し、参加者が海洋プラスチックごみ対策への決意を表明。

※別途、コスタリカともバイ会談でビジョンを共有した。

※G20各国や、参加した国際会議の成果文書にビジョンの共有が明記されたことを通じてビジョンを共有した国を含めて、ビジョン共有国は59か国になった。



## 日時

12月11日（水） 12:00～13:20

## 場所

国連経済社会局(UNDESA) SDGs Pavilion

## 参加者

小泉環境大臣、森下地球環境審議官、  
水鳥真美・国連事務総長特別代表・国連防災機関(UNDRR)代表、  
持続可能な開発に関する国際研究所(IISD)、  
生物多様性条約(CBD)事務局 等

## 概要

- 大臣より、SDGsの実現に向けた日本の具体的な取組を紹介しつつ、2020年に循環経済ビジネスフォーラム及び気候変動と防災に関する国際会議を開催するとともに、2021年に第3回気候変動とSDGsのシナジーに関する国際会議をホストする意向を表明。



## 日時

12月11日（水） 14:30～15:45

## 場所

Japan Pavilion

## 参加者

小泉環境大臣

水鳥真美・国連事務総長特別代表・国連防災機関(UNDRR)代表、  
国立環境研究所、IGES、インドネシア国家開発計画省、  
タイ天然資源局、太平洋気候変動センター(PCCC)、アジア開発銀行

## 概要

- 大臣より、気候変動に対して強靱な世界の実現に向けた日本の取組を紹介し、来年、気候変動と防災に関する国際会議を開催する意向を表明。
- 水鳥特別代表より、世界の気候関連災害の現状の紹介があった後、昨年6月に立ち上がったアジア太平洋適応情報プラットフォーム（AP-PLAT）の果たす役割と今後について専門家間で議論を深めた。



## 日時

12月11日（水） 16:00～17:00

## 場所

公式サイドイベント会場

## 参加者

小泉環境大臣、  
トゥビアナ ヨーロッパ気候基金 CEO(司会、元フランス気候変動大使)、  
バイニマラマ フィジー共和国首相、  
ショウ ニュージーランド国気候変動問題担当大臣、  
ロドリゲス コスタリカ共和国環境・エネルギー大臣、  
ミョンレ 韓国環境部長官

等

## 概要

- フィジー、韓国、モナコが新たにカーボン・ニュートラル連合に加盟したことが報告された。
- 小泉環境大臣より、日本が、G7で初めて長期戦略でカーボンニュートラルを宣言したこと、長期戦略で掲げるコンセプトとビジョンの達成に向けた具体策、自治体や企業などノンステートアクターの動きが加速していること、東京で開催予定のCEダボスで本連合を後押しするセッションを設ける予定であること等を発信した。
- 韓国の趙環境部長より、小泉大臣に対して、カーボン・ニュートラル連合への加盟にあたって後押し(indicate)を受けとことについて謝意が述べられた。

日時

12月12日（木）17:30～19:00

場所

Japan Pavilion

参加者

Bangladesh の環境森林気候変動大臣を含むパートナー国のハイレベルが参加

概要

- ・ Bangladesh の大臣から、日本の取組やJCMの効果（温室効果ガス削減のみならず、SDGsへの貢献など）について謝辞が述べられ、JCMのさらなる発展のための機運を醸成。小泉大臣からは、プロジェクト審査におけるジェンダー・ガイドラインの導入を表明。

